農大だより

令和２年７月号　No. 87
編集発行：愛知県立農業大学校

オープンキャンパス2020を開催

７月４日(土)、18日(土)にオープンキャンパス2020を開催しました。

新型コロナウイルス感染症のため昨年までは、６月と８月に開催していましたが、今年は、７月と８月にそれぞれ２回ずつとし、会場等の３密を防止するため、事前予約制としました。７月の２日間合計で高校生等本校への入学に関心のある者が36名、保護者の方が37名、計73名の参加がありました。期末試験の日程が学校により異なっていることもあり、参加者は、やや少なめでしたが、県内はもとより岐阜県、大阪府、京都府からの参加者もお見えになりました。

参加者は、大講義室でのパワーポイントを使った農大の概要説明と、キャンパスツアーを行いました。

両回とも７月前半の長雨の時期でしたが、キャンパスツアーの間は、雨が降らなくて、広大な敷地にあるほ場などを見学することができました。

［キャンパスツアーで本校施設の概要説明］

また、終了後の受験相談では、入学試験、入学後の学習・生活などについての質問に対して、職員が回答やアドバイスを行いました。

参加者からは、「農業を学べる身近な施設として関心を持っています。」、「色々な施設が見学できてとても参考になりました。」、「学生の授業等の様子が見たかった。」といった感想が寄せられました。

なお、８月１日、８月22日の各土曜日午前10時から、第３回と第４回のオープンキャンパスを開催します。事前予約のうえ御参加ください。予約の方法等詳細は、本校ホームページで確認をしてください。

（学務科　伊藤　正美）

校　外　学　習
花き市場の仕組みを学びました（切花専攻）

７月15日(水)に、切花専攻２年生11名が、花き市場の仕組みを学ぶ目的で、愛知名港花き地方卸売市場に校外学習に行きました。当初は、新型コロナウイルスの影響で視察が可能かどうかが危ぶまれましたが、見学を快く受け入れていただきました。当日は愛知名港花き卸売事業協同組合の担当者から、出荷物の搬入、自動搬送、セリ場、搬出までの流れについて、詳しく説明をいただきました。また、仲卸の店舗、資材販売店舗なども見学しました。

［市場全体の入荷物の動きについて
説明を受けている様子］

切花のセリでは、全８レーンのセリ場で同時進行にセリが進む中、学生たちは、電光掲示板の多量の情報を見ながら買参人（セリの参加者）がすばやく競り落とす様子に見入っていました。特に花き農家の後継者である学生は、自分の地元の農協から出荷された切花が競り落とされる様子を熱心に見学していました。

［市場に入荷した花についての説明を熱心に学ぶ学生］

愛知名港花き地方卸売市場は、切花では東海地方最大の花き市場であること、最新設備で品質管理がしっかりされていること、生産者が安心して出荷できるように市場が努力していること、また、遠方の方のために在宅セリ（インターネット）も受け入れていることなど、非常に多くのことを学んだようでした。

（農学科　近藤　満治）

先進技術と農業機械の活用を学ぶ（露地野菜専攻）

６月26日（金）に露地野菜専攻の２年生（15名）が、校外学習でいずれも豊橋市のＪＡあいち経済連営農支援センターとキャベツ生産者を視察しました。

営農支援センターでは、所長、研究員、分析員の方から、先進技術や産地課題に対応した技術実証、残留農薬・無機成分分析、病害虫・生理障害診断等について説明していただきました。スイートコーンの除草剤試験のような農大でも行っていて身近に感じられる取組もありましたが、環境制御技術や養液栽培等を導入した新設ハウスの見学では、施設園芸の最先端技術に刺激を受けた学生も多かったです。残留農薬・無機成分の分析については、生産現場から営農支援センターまでの分析の流れや分析結果の活用方法を知ることができて良かったという感想がありました。

［キャベツ生産者から開発機械を見ながら説明を受ける］

キャベツ生産者からは、農業機械の開発・改良や効果的に利用するための工夫、品目転換等これまでの経営の変遷について説明してもらいました。開発・改良した機械は、かん水ホースの回収・運搬機、マルチと同時にマルチ抑えの土を置けるような作業機、ハクサイの結束作業を軽労化するための作業用椅子など多数あり、それぞれ実物を見ながら、開発・改良の目的、工作の方法、普及状況等を学ぶことができました。学生からは、「早速自分でも作ってみたい」、「女性目線で作業改善を図っていることが分かった」、「自ら問題点を明確にして解決していることに感銘を受けた」、といった感想が聞かれ、有意義な校外学習になりました。

（農学科　長屋　浩治）

最新の研究成果と６次産業化を学ぶ
（施設野菜専攻）

６月26日（金）に施設野菜専攻の２年生（12名）が、校外学習で株式会社横山農園（豊明市）と愛知県農業総合試験場（長久手市）を視察しました。

横山農園の経営の主体は、トマトとメロンの栽培です。収穫量は販売が見込める量に制限して全量直売と直営のレストランに出荷しています。

代表取締役からは、農業経営の難しさやトマトとメロンの栽培方法、アメリカ留学での農業体験等、校外学習でしか聞くことができない先輩農家からの貴重な話をしていただきました。ほ場見学では、隔離培地内の土作りやソルゴーによる隔離培地に残った肥料の除去方法やバーク堆肥を加えて土壌消毒後の培地内の微生物を補充する方法等、実践的な土作りの方法を教えていただきました。

直売を中心とした経営の話は特に印象深かったようで、学生からは、外からは見え難い経営努力（お客さんにあわせた丁寧な顧客管理や多額の広告費を掛けた宣伝）が重要だと分かったので今後の参考にしようと思う等の感想がありました。

［横山農園の生産ほ場で栽培技術について説明を受ける学生］

愛知県農業総合試験場では、野菜研究室の研究成果として開発品種が説明されました。次世代施設野菜研究室では、モニタリング装置あぐりログ、ミスト灌水等の環境制御に関わる各種生産技術が説明されました。

施設見学では、品種育成を目的とした交配の現場や海外から収集したナスの遺伝資源の特性調査の現場を視察しました。また、モニタリング装置あぐりログのモニタリング状況やミスト灌水装置等、最新の施設や設備を学ぶことができました。

［農業総合試験場で試験内容について説明を受ける学生］

学生からは、抵抗性の品種ができたら作ってみたいやスマホでハウス状況がわかるモニタリングを使ってみたいという声が多くありました。

（農学科　榎本　剛士）

畜産課程学生が校外学習で有意義な１日
（酪農専攻、養豚・養鶏専攻）

梅雨の中休みの７月15日（水）に、農学科畜産課程の２年生23名（酪農専攻13名、養豚・養鶏専攻10名）が、校外学習を実施しました。校外学習の見学先は、日進市にある有限会社愛知兄弟社（愛知牧場）と一宮市にある一宮市浮野養鶏株式会社（ＧＰセンター、うきうき村）です。

有限会社愛知兄弟社では、代表取締役社長自ら「愛知牧場の歴史」として牧場の経過や取組、さらには今後の経営戦略について、説明していただきました。

愛知牧場は、1946年の入植当時にサツマイ

モ畑作からスタートし、３年後に北海道から２頭の乳用牛を導入したことが牧場としての始まりとなったようです。1966年には100頭収容のスタンチョン（繋ぎ飼い）牛舎、その３年後には牛乳製造工場、1987年から1991年には、牛乳直売所、喫茶店、モーハウス（直売店）の建設をし、観光牧場としてリニューアルしながら、多岐にわたり経営を行ってみえます。近年は新たな取組として、牧場内でのコスプレ撮影ロケやハロウィン仮装・パレード等も展開されています。

見学では、牧場の開始から６次産業化、さらには、観光牧場までに展開された経営戦略に、多くの学生が感銘を受けていました。

［愛知牧場（ゲストハウス）での受講風景］

一宮市浮野養鶏株式会社では、担当社員の説明を受けた後、ＧＰセンター、うきうき村（直売所）の見学をしました。

一宮市浮野養鶏株式会社（以下、「浮野養鶏」）は、1963年に地域の養鶏農家約50戸を１か所に集約した養鶏団地として、一宮市浮野養鶏農業協同組合が設立されたことに端を発しています。1998年にはウインドレス鶏舎の建設とともに直売所「うきうき村」を開設し、地元の野菜や果物等を提供しています。2014年には株式会社化し、いちのみや食ブランドに登録されている「尾張の卵」を生産・販売しています。

現在、浮野養鶏では、約18万羽の採卵鶏が飼育され、鶏卵を中心として生産から流通・販売、体験までの６次産業化を目指して展開しています。

ＧＰセンターの見学では、検卵、洗浄・殺菌、重量選別、検査、包装等の10工程を経て出荷され、機械化に加え人の手に頼る工程もあり、製品としての鶏卵の生産・出荷において、徹底した管理がされていました。

［浮野養鶏（ＧＰセンター）での見学風景］

うきうき村の見学では、鶏卵の重量規格等の説明を受けることができました。

浮野養鶏では、協同組合から株式会社への移行、飼養規模の大きさ、地域に密着した経営のあり方に、多くの学生が感銘を受けていました。

今回の校外学習では、それぞれの経営体の経営理念や経営戦略の素晴らしさはもとより、６次産業化への展開等に触れることで、大いに刺激を受け、有意義な１日となりました。

（農学科　永田　完）

加　工　演　習
フラワーアレンジメントの制作を学ぶ
（鉢物・緑花木専攻、切花専攻）

鉢物・緑花木専攻及び切花専攻の２年生は、花きの活用方法を学ぶため、「農産加工演習」の一環として、フラワーアレンジメントを年間５回にわたり学習しています。安城市で教室を主宰する木村講師をお招きし、アレンジメント、コサージュなどの制作やデザインの基礎について御指導をいただいています。

第１回目の６月16日は、バラ、トルコギキョウ、ライラックなどの花材を吸水性スポンジに挿していき、トライアンギュラー

（三角形）のアレンジメントを制作しました。

［講師の説明を真剣に聞く学生］

学生は、バラやドウダンツツジの枝葉を使ってデザインの中心となる焦点や全体の大まかな形を決めた後、メインとなる大きな花を中央に挿し、その他の花や枝葉を空間を埋めるように配置しながら形を作っていくことを学びました。全体の形がうまく整わずに苦戦している学生が多くいましたが、木村講師からアドバイスをもらいながら花を挿す位置や角度を修正し、作品の完成に向けて真剣に取り組む姿が見られました。

［完成したアレンジメント］

今後、８月と11月にもこの演習の実施を予定しております。学生には、様々な作品の制作を体験し、花きの活用についての理解を深めてもらいたいと思います。

（農学科　原　知明）

今年もおいしいフルーツジャムができました！！（果樹専攻）

６月26日（金）、果樹専攻２年生14人が農産加工実習で、農大で収穫した果実を使用し、モモとアンズのジャム作りを体験しました。果肉に砂糖を混ぜながら糖度40度以上になるように煮詰めて仕上げますが、ジャムが焦げ付かないように絶えずかき回すのはかなり大変な作業でした。

［ジャム作りの様子］

今回作ったジャムは12月５日（土）に行われる農大祭で販売します。農大ジャムは人気があり、昨年はすぐに完売してしまいました。今年はアンズが不作でしたので用意できた数が30ビン程度しかありませんので、購入を御希望される方は早めに並んでいただくと良いと思います。

学生が丹精こめて造ったジャムを是非、御賞味ください。

（農学科　佐野　達也）

専　攻　紹　介

【作物専攻】

作物専攻では、９枚、計3.3haの水田ほ場で、水稲、小麦、大豆の栽培実習に取り組んでいます。中には約１ha区画の大きな水田もあり、大区画ほ場に適した作業能率の高い直播栽培技術の実習を行っています。また、水田で作られた米の一部は、自分達で乾燥・籾摺り・精米を行って、毎週水曜日に実施している販売実習において消費者の方々に直接販売しています。加えて、生産した大豆を使って味噌造りを行い、農大祭で販売する五平餅に利用しています。

令和２年度の在籍者は２年生８名、１年

生８名の計16名で、うち農家子弟の学生は５名です。入学当初にはイネに触ったことのない学生も少なくないため、１年生において水稲栽培に関する基本知識が身に付けられるよう実習を進めています。

１年生の終盤からプロジェクト学習に取り組み、卒論としてまとめていきます。そのため、２年生になると各学生にほ場を割り当て、担当学生が責任を持ってほ場の作業や栽培管理、生育調査等を行う体制としています。

本年度は、水稲の無農薬・無化学肥料栽培や農業総合試験場が開発した新品種の栽培法の検討、稲WCS、密苗栽培などをテーマとして取り組んでいます。また、農機メーカーに協力いただき、最新の田植機やコンバイン等の実演も実施しています。

（農学科　古川　恵）

［全自動田植機実演の様子］

【鉢物・緑花木専攻】

鉢物・緑花木専攻では、ガラス温室や遮光ハウスなど約1,500㎡の施設ほ場と600㎡の露地ほ場を利用して、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木、花壇苗等100種類以上の品目を栽培しています。主な品目はシクラメン、アンスリウム、シンビジウム、フッキソウ、パンジーなどです。

本専攻の学生は、在籍者22名（２年生８名、１年生14名）のうち農家出身者は３名と、非農家の割合が高くなっています。また、普通科高校出身者も多く、入学当初は品目の名前をほとんど知らない学生もいます。しかし、毎日、鉢物栽培に接することで、品目の名前と特徴を早く覚え、２年間で温室管理や潅水、施肥、病害虫防除等の栽培管理全般を身に付けます。

［シクラメンの鉢上げ作業］

専攻実習では、１年生の６月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木」の４つの部門に分かれます。各部門では、上級生によるきめ細やかで丁寧な指導に加えて、学生の「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで､実習作業内容の充実を図っています。さらに、学生に一定の栽培管理を任せることで、責任感や自分でプロセス管理する能力の向上を促しています。

４部門に分かれると、プロジェクト学習を始めます。テーマは、新たな栽培方法の検討や栽培技術の改善、系統選抜など様々ですが、いずれのプロジェクトも単なる調査にとどまらず、品質向上や低コスト化、省力化などについて比較・分析を行い、農業経営の改善に繋がる学習内容となるように指導しています。

本年度のプロジェクトのテーマとして、多肉植物の低照度環境下でのＬＥＤ補光による草姿維持効果の検討、シクラメン６号鉢の鉢上げ方法の改善による品質向上などに取り組んでいます。

また、栽培技術を学ぶ一方で、自ら育てた鉢物を商品として販売する方法も学びます。地元市場への出荷、毎週水曜日に本校体育館で行う販売実習、他施設へ出かける

校外販売実習を通して、市場ニーズや消費者ニーズ、対面販売による接客方法、商品情報の伝え方などを学習しています。

（農学科　坂場　功）

農業者生涯教育研修
農業者育成支援研修並びに農福連携支援研修が開講

６月22日（月）に農業大学校第一研修室において、令和２年度農業者育成支援研修並びに農福連携支援研修の開講式が行われました。

［開講式の様子］

農業者育成支援研修は、本年度12名の研修生で実施することとなり、就農時に必要となる基礎的な経営や栽培に関する知識・技術を身に付けたい方を対象にした研修です。本校のほ場で週３日間、春夏野菜のスイカ、ナス、ピーマン、秋冬野菜のダイコン、ラッカセイ等の露地野菜栽培を行います。また、計18回の農学専門講義も行います。

農福連携支援研修は、19名が参加することとなり、実習・講義を14回開催します。本研修は、福祉事業所の職員が所有するほ場を運営するために必要となる基礎知識や栽培技術を修得することを目的に、本年度から開講する研修です。

これで農大が実施する新規就農希望者対象の研修が出揃い、希望に満ちた研修生の活動がスタートしました。

（担い手支援科　福井　敏幸）
（就農支援科　河野　真砂子）

農産物利活用研修
～６次産業化成功にむけて～

農業経営の多角化として６次産業化の取組を検討している農業者を対象とした農産物利活用研修会を６月25日（木）に開催しました。テーマは「６次産業化成功にむけて」と題し、県内各地から11名が参加しました。

愛知県６次産業化サポートセンター総括企画推進員の中野公雄先生より、６次産業化サポートセンターの役割と、主要な支援の改正点を話されました。改正点は、プランナー派遣には、①支援申請書の作成、②支援に必要な資料（財務諸表等）の提出、③地域支援検証委員会による検討。その結果、派遣が決定するという内容でした。
そのため、多くの時間と事前準備が必要であると強調されました。また、すぐに６次産業化に取り組むのではなく、今の状況を分析することが重要であり、優良事例を交えて足下を見直すことが語られました。

［講演の様子］

次に、実際に取組実績を上げているイチジク農家の大島美智子先生から、こだわりイチジク栽培の経緯と苦労話が語られました。継続していくことの重要性、売れ残ったイチジクは､お宝と思って加工品にして、付加価値を高め、大切にしてきたこと、工夫した点など貴重な経験談から、参加者にとって有益な示唆をいただきました。

アンケートの結果、参加者の９割以上から研修会が参考になったと評価されまし

た。次回は、８月31日（月）に農業のマーケティングと６次産業化の研修会を開催します。

（就農支援科　河野　真砂子）

生産高度化研修（作物部門）を開催

６月26日（金）農業大学校において、「みんなで創るあいち米新ブランド」をテーマに農業者生涯教育研修生産高度化研修（作物）を開催しました。この研修会は、「愛知123号」ブランド化推進協議会と共催で開催し、令和３年度「愛知123号」生産者募集説明会も兼ねて行いました。

［新型コロナウイルス対策のため
座席の間隔を取って着席］

当日は41名の参加がありました。「愛知123号」の試食を行った後、新型コロナウイルス対策のため広い大講義室に分散し講師の話を聞きました。講演では、農業総合試験場から「愛知123号（なつきらり）」の開発の背景、品種特性についての説明があった後、園芸農産課からブランド化戦略及び品質基準等の説明があり、最後に農業総合試験場から品質基準を満たすための栽培法の説明がありました。総合討議では、あいち米の新ブランドとしてどのように差別化を図るべきか、意見が出されました。

参加者のアンケートの結果は、「大変参考になった」及び「参考になった」が95％であり、好評でした。

（担い手支援科　杉浦　直樹）

スプレーギクの生産安定技術を学びました

農業者生涯教育研修（生産高度化研修）が７月16日（木）に愛知県農業総合試験場（花きに関する実用化技術研究会）及び愛知県花き温室園芸組合連合会との共催で開催されました。

今回のテーマは「スプレーギクの生産安定技術」と題し、県内から31名が参加されました。

はじめに、東三河農業研究所花き研究室の平松裕邦技師から説明があり、夏季ハウス内の高温障害（黄斑点症状など）対策として、頭上散水が効果的であると報告されました。また、高温による開花遅延対策としてヒートポンプを活用した夜明け前冷房が効果があると報告されました。

次に同研究室の奥村義秀主任専門員から、スプレーギクの新品種紹介がされ、夏秋ギク「スプレー愛知夏２号」秋ギク「アイセイカーラ」の品種特徴、育成経過、普及目標などが説明されました。講演後に東三河農業研究所試験ほ場に出向き、新品種を含めいろいろなスプレーギクを実際に見て、育成系統について意見交換がされました。

［試験ほ場での意見交換］

受講者からは、頭上散水時点の天候、気温の影響や、散水効果の高い時間帯や頻度などが質問され、関心の高さがうかがわれました。また、研修後のアンケート結果では、参加者の９割以上が参考になったと回

答しており、「８月（翌月）の出荷に向けて参考になった」など、概ね好評で、有意義な研修となりました。

（就農支援科　柴田　健）

農作業サポーター育成研修（花きコース【第１回】）を開講

農作業サポーター育成研修（花きコース【第１回】）を、７月16日（木）に開講しました。

この研修は、国の令和２年度補正予算を活用し、新型コロナウイルス感染症に伴う経済対策として今回初めて実施するもので、新型コロナウイルス感染症の影響により、外国からの入国が制限されたことに伴い、外国人技能実習生を労働力として活用している農業者等において労働力不足が発生していることから､労働力不足を解消し、農業生産を維持・継続するために、外国人技能実習生の代わりとなる人材を育成することを目的としています。

［バラ温室内での作業実習］

当研修は、受講希望者と研修修了後の支援先となる農業者（又は法人）とのマッチングが必要であり、マッチングが成立した１名が受講しました。

７月22日（水）までの土日を除く５日間、午前９時から正午まで、バラに関する基礎知識や栽培技術を学ぶとともに、実際に温室内で収穫や芽欠き作業等の実習を行っています。

研修修了後は、東三河地域のバラ生産法人で一定期間、作業支援を行う予定です。

（担い手支援科　加藤　友康）

農大からのお知らせ

◇新型コロナウイルス感染防止のためのお願い◇

校内における新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るため、３つの密を避け、マスクの着用、手洗い・手指消毒を励行するなど、学生や研修生、職員への感染防止対策に取り組んでいます。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

なお、行事等については、新型コロナウイルス感染症の状況により、延期もしくは中止となる場合があります。その際は、農業大学校ホームページ等でお知らせします。

◇オープンキャンパス2020◇

・開催日時
　第３回　８月１日（土）
　第４回　８月22日（土）
　各回とも午前10時から正午まで
・対象：農業大学校への入学に関心のある者及びその家族又は学校の先生
・定員：各回60名
・場所：農業大学校
　岡崎市美合町字並松1-2
・事前に参加申し込みが必要です。
　各回とも前週の水曜日から受け付けます。
・詳細は本校ホームページを御覧ください。

・歩きやすい服装と靴、帽子や水分補給のための飲み物を御持参ください。
・問合せ先：学務科（伊藤）0564-51-1602

◇緑の学園（１日農業体験学習）◇

・開催日時
第４回　12月24日（木）
午前10時から午後４時30分まで
（雨天実施）
・対象：主に高校生（農業を学びたい高校卒業生を含む）
・定員：30名
・場所：農業大学校
岡崎市美合町字並松1-2
・受講申込書を郵送又はファクシミリで研修部まで送付してください。
（締切日：12月１日（火））
・詳細は本校ホームページを御覧ください。
・問合せ先：就農支援科（柴田）
0564-51-1034

◇令和３年度入学者選抜試験◇

一般推薦入学試験
・出願期間：令和２年９月29日（火）から
令和２年10月15日（木）まで
・試 験 日：令和２年10月30日（金）
・合格発表：令和２年11月12日（木）
・試験科目：小論文（800字以内）
面接試験
・募集人員：定員100名のうち２／３以内
（特別推薦入学者を含む）
・受験会場：農業大学校

一般入学一次試験
・出願期間：令和２年11月12日（木）から
令和２年11月26日（木）まで
・試 験 日：令和２年12月８日（火）
・合格発表：令和２年12月18日（金）
・試験科目：数学Ⅰ、小論文（800字以内）
面接試験
・募集人員：定員100名のうち推薦入学合格者を除く人数
・受験会場：農業大学校

一般入学二次試験
・一般入学一次試験で合格者が定員に満たなかった場合に実施します。

その他
・特別推薦入学試験、その他入学試験についての詳しい情報は、本校ホームページを御覧ください。
・問合せ先：学務課（近藤）0564-51-1602

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和２年８月の生産物実習販売についてお知らせします。
新型コロナウイルス感染対策のため、３月18日から休止しておりましたが、緊急事態宣言が解除されたことから、感染防止対策を行った上で、６月３日から販売を再開しました。
・販売日：８月５日、12日、19日、26日
（祝日を除く毎週水曜日です。）
・時　間：午後３時から
・場　所：農業大学校体育館他
※なお、袋入り堆肥は、第２機械庫前で販売します。（毎月第２水曜日）
・問合せ先：農学科（山本）0564-51-1673

校内でCSF（豚熱）防疫対策実施中
農大では、ＣＳＦ防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。
○畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
○農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
○関係車両等の消毒の徹底
（車両消毒槽、動力噴霧器）
○その他、諸防疫対策を実施